

巻頭言

理想的なクリスマス

立教大学チャプレン トーマス・プラント



実は私の母国イギリスには、12月25日には「理想的」なクリスマスと「現実的」なクリスマスのふたつがあります。理想的なクリスマスとは、それぞれの家庭で子供たちが大喜びして早起きし、サンタクロースが彼らがイブの晩に支度しておいたシェリー酒を飲んだかどうかを確かめ、キラキラ輝くクリスマスツリーの下に置かれた山ほどのプレゼントを開けます。お母さんは台所のオープンに大きな七面鳥を入れ、家族が教会から戻ってくるまでに出来上がるよう火をつけます。教会を訪ね、美しい音楽に心満たされ、短めの説教のミサを楽しんで家に帰り、大勢の親戚と一緒にワインを飲んだり、美味しい昼ご飯をゆっくり味わいます。午後になると、女王の伝統的な「クリスマス・スピーチ」—今年初めて初めて国王によるスピーチになりますが—を聴くためにテレビをつけます。やがてスピーチが終わり、さらにワインを飲みながらボードゲームに興じたりして、クリスマスの一日の残り時間を過ごしてから、ようやくベッドに入ります。

これはイギリスの「理想的なクリスマス」なのですが、ほとんどの人はこうではない「現実的なクリスマス」を過ごします。今は、かつての世代と比べたら、子供の人数が減ってきています。さらに子供がいたとしても、イギリスでは離婚率が非常に高いこともあり、両親で育児を分かち合うケースが複雑になる場合が多いのです。現実には、子供たちが「どこでクリスマスを過ごす」かを決めることが夫婦喧嘩の原因になることがあったりします。さらにYouTubeやTikTokの広告主が子供向けに用意したプレゼントを買う余裕のない両親も多いのです。七面鳥も値段が高いため、それを買うために残業して稼がなければならない両親も少なくありません。こうして、ほとんどのイギリス人はクリスマスの日にも教会に行かなくなってしまいました。ボードゲームというとなにか楽しそうに聞こえますが、

酔っぱらった親戚とゲームしたあけく、喧嘩になることさえあるのです。一方では、一人暮らしの人びと、特に大切な家族を失った人や年老いた人びとからすれば、家の窓から世のすべての人びとがクリスマスを楽しんでいるのを目にしたりとすると、気分が落ち込んでしまいます。

しかし、実際には、イギリスの「理想的」なクリスマスも、最悪とも言うべき「現実的」なクリスマスも、本来の「キリスト教」の教えによるクリスマスとは本質が異なります。なぜなら、キリストの誕生日は神が自分の力を捨て、裕福な大家族の中ではなく、難民の両親のもと、粗末な馬小屋で生まれたことこそを祝う日だからです。大人になった主イエスは弟子たちに、もし祝い事をするなら、自らの仲間や親戚よりも、むしろ貧しい人、飢えている人、寂しい人を誘わなければならないと仰いました。

クリスマスは主イエスの誕生を祝う喜びの日ですが、キリストが示した愛を私たちが隣人に示す時でもあります。それ故、人びとが真に「キリスト教的」なクリスマスを経験できるように、「理想的」なクリスマスと「現実的」なクリスマスを両立させる必要があります。つまり、一緒に飲んだり食べたりして祝うことは間違いではないのですが、イエス様によれば、招き入れる心をより広く持ち、行くあてのない人びとを招くべきなのだと考えます。よく知らない隣人を自分の家の中に招くという行為はイギリスや日本の文化にあまり合いませんが、主イエスは私たちのありようを試されているといえるでしょう。今年のクリスマスに、ただ一人だけ取り残されて、もの寂しい人を私たちの食卓に誘うことはできないのでしょうか？

神様が貧しいひとりの赤子を通してこの世を祝福できたのなら、私たちは寂しい隣人を通して私たち自身の家庭を祝福できることでしょう。誰かと真に理想的なクリスマスを経験してみませんか？